

領域 2 運営会議議事録（案）

日時： 平成19年3月20日 11:30-12:50

場所： 鹿児島大学 理学部2号館 QC会場

会議資料

小野代表パワーポイント資料：以下「PPT資料」

会場配布資料1「領域2（プラズマ物理分野）運営会議」「領域2の活性化案と領域活動へ向けたお願い--日本物理学会 年会・分科会の活性化（WG案）を受けて--」「プラズマ分野の学会連携活動へ向けたお願い」：以下「運営会議資料」

会場配布資料2「天文学会2007年秋季大会 第3回 物理・天文・地球電磁気・地球惑星圏学会3学会合同プラズマ共催セッション」：以下「天文学会資料」

1. 領域連携推進：チュートリアルの新設

領域代表により「PPT資料」2ページに基づいて説明があり、今後も続けていきたい旨の発言があり、「面白く勉強することができた。これからは横断の時代である。今後も続けたほうがよい。」という会場からの発言があった。これらを受けて、今後も引き続き、評価を行いつつ、チュートリアルを継続していく方向性が確認された。

2. 役員会発足と領域独自性の拡大

前回運営委員会における幹事会発足・整備をうけた2回目の議論として、小野代表より、世話人を領域2役員とし、役員の役割分担を行って懸案を集中的に議論、運営委員会、代表が決定する体制が提案された（「PPT資料」3.4ページ）。また、学会の活性化WGの答申を受けた領域2の対応として、幹事会で議論を行った短期、中期、長期のアクションプランが提案された（「PPT資料」5.6ページ）。「運営会議資料1」のうち「領域2の活性化案と領域活動へ向けたお願い」を説明し、原案について意見を求めた。

（伊藤（公））6学会についての学会側からのサポートの議論で2点コメントがあった。

- (1) 3学会合同セッションが成功したことを示すデータベースをつくり、6学会になるとさらに良くなることを説明する資料にするとよい。
- (2) 財政基盤を考えるときに、自分の研究費・ポケットマネー等を使って講演料を支払い参加することが結局得になるように、（講演料の領収書など）公的なものにして周知するようにしてほしい。活発な研究グループがそれを支えることになる。是非フォーマルなものを作っていただきたい。

（小野代表）これは我々の中でということではなく、一度物理学会に納めていただいて、その中で、これは領域2が稼いできたものということで領域2が使えるような“財布”を

作っていただきたいとお願いをしている。

(伊藤(公)) 物理学会の方でフォーマルなものとなるように、理事会に要請していただきたい。

議論の結果、指摘の点について留意の上、原案が認められた。

3. 若手賞進展状況

小野代表より、若手賞の進展状況について報告があった、これから選考委員会を開き 4 月 10 日までに候補者を決めて、理事会に申し入れて正式決定される予定になっている。

4. 学会連携について

小野代表より、前回運営委員会で認められた学会連携の拡大について報告があり、今後の方向性について意見を求めた。

(小野代表) 論点が 2 つある。(1) 3 学会連携が 1 サイクル終わった。2 サイクル目をやるか? (2) 応物学会、電気学会との連携: 似たようなテーマを研究している。境界領域もたくさんある。プラズマ全体としての発言力を高めるのに、共通セッションを作ることで、学会はたくさんあるが、プラズマとしてまとまりながら、発言力を強める。その中で、領域 2 も中核的な役割を担うようになることで、発言力を高める戦略である。いまのところ、「運営会議資料」2 ページのように応物学会にお願いをしている。応物学会プラズマエレクトロニクス分科会幹事長(畠山先生)も乗り気である。静電気学会、放電学会も横断型分科会に参加を希望している。将来的にプラズマ全体でまとまる機会ができるとよい。プラズマ物理、応用が入った Union Symposium (「PPT 資料」11 ページ)が将来できるとよいと考えている。

(笹尾) 連携は大切であり、ごく初期の段階で関連学会に広く声をかけるのがよい。2, 3 の学会から始めて、順番に声をかけていくようでは、後から入る学会は立ち上げ段階が見えないので入りにくい。

(伊藤(早)) 基本的にはよいと思う。フレームワークだけでは中身がない場合がある。最初は小さな連携でもよいので、具体的に企画を出し、1 例でも 2 例でも、目に見える形で実在を示しながら進めていかなくてはならない。

(小野代表) 具体的なテーマを取り上げてシンポジウムを行うなど実績を作って、連携が皆に認められるようにしていきたい。

指摘の点に留意の上、原案のように学会連携を進めることになった。

5. ビーム物理領域の合同セッション報告

(小野代表) ビーム領域から、次回の秋季大会の合同セッションの申し入れがあった。合同セッションに応募できるようなキーワードの設定の調整を行っている。(「PPT 資料」12 ページ)。領域 2 から見ると第 2 キーワード「高エネルギー密度プラズマ物理」により位

置づけることができると考えている。この提案について意見をいただきたい。

ビーム領域からの提案のように合同セッションを企画し、領域 2 側からは「高エネルギー密度プラズマ物理」を合同セッション用キーワードに当てることになった。

6. シンポジウム提案

今回の秋季大会のシンポジウムの提案が 3 件あった。

(1) 「ペタワットレーザーによる高エネルギー密度プラズマ物理の研究の展望 (提案: 三間)」
(坂上) 「PPT 資料」 13, 14 ページ説明。ビーム領域合同セッションとは独立である。

(小野代表) 合同セッションキーワード「高エネルギー密度プラズマ物理」と混乱するかもしれない。レーザ関係の先生方どうですか？

(畦地) 「高エネルギー密度プラズマ物理」は第 1 キーワードにできないのか？

(小野代表) 合同セッションのキーワードが第 1 キーワードでないのは不便であり、幹事会でも問題視している。キーワードを弾力運用することが考えられるが、第 1 キーワードは重要な論点なので、今後のキーワード検討の中で対応を考えたい。

(畦地先生) キーワードを整備したときに、企画セッションについては、企画セッションというキーワードとせず、第 2 キーワードにキーワードを用意したのか？

(岸本前代表) 第 2 キーワードをうまく利用するとよいのではないか。

(小野代表) 今後はキーワードの企画枠を数年単位で活用し、さらに弾力的にプログラム編成ができるように考えたい。

(2) 「プラズマ・材料・核融合におけるワームデンスマターで繋がる分野連携とその展開 (仮題) (提案: 名大・大野ら)」

(田中) 「PPT 資料」 15-17 ページ説明。

(3) 「非エルミートスペクトル理論の進展と展望 (提案: 吉田 (善))」

(古川) 「PPT 資料」 18 ページ説明。

(小野代表) シンポジウム提案は、以前はこの会議で提案することが大事であったが、スケジュール的に先に提案締め切りがあるため、締め切り時点では内容が変わる場合もある。前回運営委員会の議論により、今後はこの会議を経ない場合でも内容的に良いものを選んでいくことになっているので、今後も良い提案をいただきたい。

(伊藤 (公)) この運営委員会の後に招待講演の提案をしたいが、どのように提案すればよいのか？ 今日具体的に提案する必要があるのか？

(小野代表) 招待講演の提案は従来通りである。今日提案していただく必要はない。

(伊藤 (公)) あと半月くらいでチュートリアルともうまくアレンジするものを考えたい。

(小野代表) 締め切りまでまだ時間は十分ある。この会議で提案がないものでも良いものがあれば積極的に取り上げたいので、よろしく願いたい。

(畦地) 今回の招待講演の企画をしたのだが、ある領域の中での招待講演があっても、他の分野とはパラレルセッションになっている。招待講演は程度の高い講演であり、チュ-

トリアルと同様に全員が参加できるようにプログラムを組むことができないか？

(小野代表) 従来型の招待講演は現在のような形を考えているが、今後、今回のチュートリアルのように重要と認める講演については、全員が参加できるプログラムにする必要はあると考える。ただし、プログラムの枠は限られており、それが日程・時間の観点から可能でない場合もあるのでご理解いただきたい。

赤塚幹事より、9月に3学会合同セッションの企画について、会場配布資料2に従って現状のプランについて説明があった。

(赤塚)「天文学会資料」説明。今度の9月に3学会合同セッションが天文学会主催で行われる。是非皆さん参加していただきたい。

(畦地) プラズマ基礎の研究者など、物理学会からは申し込みにくいセッションになっている。

(小野代表) 第2キーワードとは対応しているのではないかと確かに第1キーワードでないのだからわかりにくい構造になっており、対策を考えたい。

(赤塚) 天文学会の方と今後調整していく。

7. 規約改正について

小野代表より、幹事会発足など議題2の結論を受けて、規約改正が必要になる旨の紹介があった。「PPT資料」19、20ページにしたがって、規約の各条項の改正について朗読があり、意見を求めた。反対意見はなく、原案が認められた。

8. キーワードについて

小野代表より、議題5、6の議論を受けて、領域2のキーワードの整備について議論を行った。昨年10月のキーワード改正について意見を求めるとともに、1) レーザ核融合の先生方から適当なキーワードが見つからず、講演が分散してしまう問題が繰り返し提起されていること、2) 合同セッションや学会連携、新企画については、キーワードの弾力運用が課題であるとの認識が示された。(「PPT資料」21-23ページ説明)

(門) 色々な人が会場に集まるようにするため、第1キーワードが分散しない方がよい。

(笹尾) 診断法と原子過程・分光が一緒になっているが、粒子を使った診断法が現在大きなウェイトを占めている。若い人の中で“分光をやっていないのだが”という意見がある。

(門) 現状でよろしいのではないかと。

(岸本前代表) 去年いろいろ議論していただいたが、物理学会では、磁場核融合、慣性核融合などで分けるのではなく、不安定性・加熱などの学術ベースで分けるべきだという意見があった。磁場核融合はそれでも機能するが、一方、小さいグループでは分散してしまい、その分野の存在が薄れるという意見もあった。新しい分野を創成して育てていくには、最初は小さなグループであるので、これを表に出していくメカニズムもキーワードに必要

である。このあたりのせめぎ合いがある。キーワード構成のワーキンググループを作り、新しい分野がどういう状況か、発表件数などのデータベースを作成し、検討する必要があると考える。また、世話人のプログラム作成の労力の軽減の視点もある。

(小野代表) 今後、少しずつ見直していきたい。ご意見いただければ、なるべくそれに沿うように検討する。

(岸本前代表) ビーム物理との連携など、他分野との連携も考えておかななくてはならない。

(江尻) プログラムを組むときに、キーワードで機械的に行うのか、世話人の裁量が大きいのか、キーワードの議論においてはっきりさせておいたほうがよい。

(プログラム担当：篠原) 希望を反映させるべきか、全体の構成を考えるべきか、キーワードに引きずられてつらいところがある。プログラム編成に自由度を持たせていただきたい。第2キーワードはもっとゆるく考えさせてもらいたい。

今後、キーワードの検討委員会を作って集中的に議論を行うことになった。また、領域 2 を大きくする仕掛けとして、キーワードの企画枠を数年単位で運用し、多数の参加者が継続的に得られるなら固定化していくことも考えてはどうかとの認識が示された。

9. 内外情報

伊藤(公)氏より、「PPT 資料」24-25ページにより、大学法人化後の競争的環境と基盤的予算の削減の中で、研究基盤の充実や人材育成をいかにはかるべきか検討している旨紹介があった。学会年次大会(07年9月)に「物理学者の意思表出」をテーマとして理事会に共同企画を提案中であり、議論への積極的な参加を求めた。

(小野) 領域 2 全員に係わる重要事項なので、議論への積極的な参加をお願いしたい。

(笹尾) 文科省の核融合研究作業部会の活動について報告する。一年かけて、飯吉委員会で今後の ITER 時代の核融合研究の枠組みについて議論している。本日午後、最後の報告書を決める委員会を行っている。事前にいただいた情報から、“こんな形で ITER に研究者が参加できる枠組み考えている”ということ、今日の夕方、インフォーマルミーティングでお知らせしたい。

10. その他

小野代表より、次期副代表については調整がうまくできず、幹事会推薦に至っておらず、今後アドバイザーボードを経て次回学会で紹介するとの話があり、認められた。

以上